

2021年2月28日(日)朝10:10

受難節第2、自由交歓会等

2月復活前第5共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題 **先に者とされた者の驕り**(29～30)

聖書:マタイ 19章26～30節

<口語訳>

新約聖書31～ 頁

マタイ 19章26～30節

<新共同訳>

新約聖書37～38頁

マタイ 19章26～30節

<新改訳第3版>

新約聖書39～ 頁

マタイ 19章26～30節

<塚本訳>

新約聖書127～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ19:26～30節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**先の者とされた者の驕り(29～30)**」は、先週の「**イエス様を信じる小さき者(21～)**」を受けて、弟子たちに語って下さった警告であり、同時に栄光のざにつく任務への励ましです。
- ⇒「**先の者とされた者の驕り(29～30)**」は、**マタイ20:16**の箇所と関わらせておられ、**マタイ19:26～20:16**は、一連のお話であることが分かります。
- ⇒ペテロの**マタイ19:27のことば**にあるように、立ち去った金持ちの青年の心への軽蔑と心の驕りがあり、主は敢えて、お叱りにならず、彼らの受け継ぐべき祝福を示されました。
- ⇒それが、葡萄園の譬えの内容です。

本論；

◇本日、**マタイ書19章26～30節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ19章26～30節**；使徒**マタイ**は、
「**先の者とされた者の驕り**(29～30)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ19:26～30節**；塚本訳◆

金持ちと神の国＜23～26＞

26 イエスは彼らをじっと見て言われた、「これは人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る。』」

◆すてる者の幸福＜27～30＞

27 その時、ペテロが口を出してイエスに言った、「でも、わたし達は(あの金持ちがいます。)この通り何もかもすてて、あなたの弟子になりました。わたし達にはいったいなんの褒美があるのでしょうか。」

28 イエスが彼らに言われた、「アーメン、わたしは言う、新しい世界が生まれて、人の子(わたし)が栄光の座につく時には、わたしの弟子になったあなた達十二人も十二の王座に

ついて、イスラエル(の民)の十二族を支配するのである。

29 そしてわたしのために家や兄弟や姉妹や父や母や畑をすてた者は一人のこらず、(この世で)その幾倍を受け、また(来るべき世では)永遠の命をいただくのである。

30 しかし(決して油断をしてはならない。)一番の者が最後になり、最後の者が一番になることが多い。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ19:26節** ;「イエスは彼らをじっと見て言われた、「これは人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る。』」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る』と、「**約束**」して下さいました。これは、大きな恵みです。

⇒「人間には出来ないが、『神にはなんでも出来る』は、「**天の国へ至る狭い門、細い道**」を入れて行けるように、荷物や宝を執着なく捨てさせることができる、という意味です」。人には、**地上的宝**を手放すことができませんが、神には、**地上の執着心や貪欲の心**を変える

ことが、おできになるのです。

⇒「一切を捨てても、神とキリストに従って来なさい」という願いを神は、起こすことが、おでいになるのです。

◇**マタイ19:27～30節**；「その時、ペテロが口を出してイエスに言った、「でも、わたし達は(あの金持とちがいます。)この通り何もかもすてて、あなたの弟子になりました。わたし達にはいったいなんの褒美があるのでしょうか。」(27)」、「イエスが彼らに言われた、「アーメン、わたしは言う、新しい世界が生まれて、人の子(わたし)が栄光の座につく時には、わたしの弟子になったあなた達十二人も十二の王座について、イスラエル(の民)の十二族を支配するのである(28)」、「そしてわたしのために家や兄弟や姉妹や父や母や畑をすてた者は一人のこらず、(この世で)その幾倍を受け、また(来るべき世では)永遠の命をいただくのである(29)」、「しかし(決して油断をしてはならない。)一番の者が最後になり、最後の者が一番になることが多い(30)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**服従の生活**」を誇る

ペテロに対して、「(来るべき世では)永遠の命をいただくのであるとの約束」とともに、「(決して油断をしてはならない。)一番の者が最後になり、最後の者が一番になることが多い」と、警告をお与えになったのです。

⇒ 厳しい警告は、弟子たちへの信頼の証拠なのです。栄光の座に着いて、イスラエル12部族を裁かせると仰せになったのです(28)。

⇒ 「さばく」とは、王子と同じ立場になって、王国の支配をするということです(ルカ22:29～30)。

⇒ エペソ2:18～22;【口語訳】

18 というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中であって、父のみもとに近づくことができるからである。

19 そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。

20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

21 このキリストにあって、建物全体が組み合わ

され、主にある聖なる宮に成長し、
22 そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。

⇒「捨てる」は、同時に、「拾う」に通じることで、自分に固執することを放棄させていただくと、神の霊のいのちと天の国の王子とともに祝福に与る権威が与えられるのです。使徒権という神の恵みです。神は、使徒権の土台の上に主の教会・永遠の御座を建て上げて下さるのです。

⇒W.バークレーは、「富」について、①富は、あやまった独立心を助長する、②富は、人をこの世に縛りつける、③富は、人を利己主義にすると、言っています。富は、ギリシャ語でマモンと言い、人をかどわかすもです。

⇒本当の富は、人を豊かにする無尽蔵の永遠のいのちで、主のみがお与えになります。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は、**マタイ19:26～30節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。

⇒「**先の者とされた者の驕り(29～30)**」は、先週の「**イエス様を信じる小さき者(21～)**」を受けて、弟子たちに語って下さった警告であり、同時に栄光のざにつく任務への励ましです。

⇒「**先の者とされた者の驕り(29～30)**」は、**マタイ20:16**の箇所と関わらせておられ、**マタイ19:26～20:16**は、一連のお話であることが分かります。

⇒ペテロの**マタイ19:27のことば**にあるように、立ち去った金持ちの青年の心への軽蔑と心の驕りがあり、主は敢えて、お叱りにならず、彼らの受け継ぐべき祝福を示されました。

⇒それが、葡萄園の譬えの内容です。

⇒ピリピ²:3～11;【口語訳】

- 3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。
- 4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。
- 5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。
- 6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、
- 7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、
- 8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。
- 9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。
- 10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

⇒主は、罪人に過ぎない者に、永遠のいのちという無尽蔵の富を託して下さいました。

⇒地上の富は、色々な方法で、私たちに縛り、自己中心主義にさせ、独立心に追いやります。

⇒聖書のみことばを読むだけでなく、聴き従いましょう。そうしないと、先陣に立っているつもりが、後陣をとるばかりか、落伍者になりかねません。

⇒日々、罪深く、弱い者であることを告白して、身を低くしつつも、栄光を主に帰して、顔を上げ、主に讚美と礼拝をささげる先の者であり続けましょう。主の恵みのみによって。